

11. 米産業に関連する諸団体

11.1 USA Rice Federation

USA Rice Federation は、アメリカの米生産者、精米業者及び関連業者等に代わりアメリカ産米の国内及び海外市場での販売及び消費拡大の為にプログラムを立案しそれを実践する団体である。1994年にアメリカの米産業界を代表する三つの全国組織(USA Rice Council、U.S. Rice Producers' Group として Rice Miller' Association)が、一つの傘の下でアメリカ米産業界の利益の為に活動する組織として創立された。ワシントン D.C.に本部を置き、アーカンソー州スタットガート市、ルイジアナ州キンダー市、そしてドイツのハンブルグ市に事務所を持つ。また、各国に代表事務所を置き、アメリカ米販売促進の活動を行っている。

11.2 Rice Millers' Association (RMA)

RMA(全米精米業者協会)は、1899年に初期の名前を Louisiana and Texas Rice Millers and Distributors Association(1912年に Rice Millers' Association と改名)として発足した米産業界で最も歴史のある団体である。RMAの正会員並びに会の運営役員は全て精米業者であるが、国内外の多岐に亘る米産業関連業種から数多くの会社が準会員として加盟している。RMAは精米工業会を代表し連邦政府、州政府そして諸外国政府等と緊密な関係を保ち、精米工業会の利益の為に広範な活動を行っている。更にアメリカの米産業界に関連した情報の収集と提供を行っている。

11.3 California Rice Commission

1999年9月、California Rice Industry AssociationとCalifornia Rice Promotion Boardが合併し、California Rice Commission(以下CRCという。)が発足した。CRCのBoard Membersは、精米加工・販売業者(Handlers)と生産者(Producers)とで構成され、構成比は半々となっており、カリフォルニア米産業界を代表する組織といえる。CRCの活動資金はHandlersとProducersより徴収される賦課金により賄われ、その賦課額は両者同額のUS\$0.03675/CWT(籾)となっている。また、1994年より商業ベース上重要とされる23品種について、種子販売会社がこれらの種子を販売する際にはUS\$0.33/CWTの賦課金を収めることになっている。CRCには7つの委員会(Committee)があり、米に関する政策につき州政府への協力及び働きかけ、カリフォルニア産米の国内外におけるプロモーション活動、GMO対策、品質対策、環境保全対策等を行っている。更に、US Rice Federationに多額な資金を供出し、双方タイアップした形のプロモーション活動も行っている。

CRCの7つの委員会(Committees)

- Executive Committee
- Budget & Finance Committee
- California Rice Producers' Group Committee
- Domestic Marketing & Promotion Committee
- Industry Affairs Committee
- International Marketing & Promotion Committee

- Research & Technology Committee

11.4 California Cooperative Rice Research Foundation, Inc. (CCRRF)

1952年、サクラメント・バレー穀物協会(Sacramento Valley Grain Association)を解消発展させカリフォルニアの米生産農家を主体メンバーとした米の研究財団法人 California Cooperative Rice Research Foundation, Inc. (以下 CCRRF という。)が発足した。以後 Rice Experiment Station の運営は穀物協会から CCRRF に移行した。Rice Experiment Station の年間予算の 85%は後に述べる California Rice Research Board より受ける研究基金であり、残り 15%は Rice Experiment Station が生産する原種(Foundation Seed)の売上金で賄われている。現在 CCRRF (Rice Experiment Station) が所有する土地は 482 エーカー(195 ha)であり、内 172 エーカー(70 ha)が原種圃として原種(Foundation Seed)の生産に使われている。CCRRF の主たる活動目標は、高収量・高品質(精米歩留まり及び食味)の品種の開発であり、第二にカリフォルニア大学(Davis)並びに農務省の行うカリフォルニア米の耕種技術(整地、肥培管理、病虫害対策、雑草処理、水管理等)に関する研究に対し土地、資材等を提供し援助することである。

11.5. California Rice Research Board (CRRB)

1969年9月、カリフォルニア州における米生産農家の79%の賛成を以って、カリフォルニア市場法1937(California Marketing Act 1937)の下で米のマーケティング・オーダー(Rice Research Marketing Order)が成立し、カリフォルニア州における米に関する研究基金として全ての米生産農家より賦課金が徴収されることとなり、同時にマーケティング・オーダーの下で California Rice Research Board(カリフォルニアの全ての米生産農家がメンバー、以下 CRRB という。)が設置された。

CRRB はカリフォルニア食糧農業局(California Department of Food and Agriculture)の監督下で、米の品種改良/耕種技術等に関する広範な研究プログラムを設定し、米生産農家より徴収する賦課金をその研究の為に運用する権限が与えられている。賦課金は毎年米生産農家が売却した籾数量に対して賦課され、2.5セント/CWT(籾)でスタートし、現在5セント/CWTとなっている。徴収された賦課金は、CRRB の設定した米研究プログラムに従い、CRRB より CCRRF(Rice Experiment Station)、カリフォルニア大学(University of California, Davis)、農務省並びにその他研究機関に研究基金として割当てられる。

CRRB が発足した1969年以降カリフォルニアにおける米の研究資金の基盤が確立したことにより、米産業界の求める広範な米に関する研究が勢力的に進められている。その中であって特に著しい成果をあげているのが、優良品種の開発であり、1969年より今日までに Rice Experiment Station にて育成され CCRRF より一般に公開された品種は39品種を数える。